

# 令和元年度 事業報告書

自 令和2年4月1日  
至 令和3年3月31日

特定非営利活動法人 地球学校

## I. 総括

地球学校はNPOになって20周年を迎えました。人間でいえば成人式です。長い間支えてくださった会員はもとより、つながりのある他団体、個人の皆さまへの感謝の念でいっぱいです。年度当初からコロナ禍の一年でしたが、20周年記念として写真コンテストを開催しました。現在のみならず過去につながりのあった方にも声をかけ、再度つながったご縁もありました。また、一般社団法人ALIVE主催「異業種混合型リーダーシップ開発プロジェクト」に答申先として会員7名で参加したことも特筆すべきことです。日常では接点のない、企業で働く現役社会人32名と過ごした三カ月は、地球学校の課題を解決する方向に、実行力を伴って導いてくれました。

当期の経常収支は黒字でしたが、新型コロナウイルス感染症対策のための神奈川県、横浜市、国の持続化給付金に因る結果です。そのため、未だコロナ禍の次年度以降の活動を継続するためにも必要な資金です。また、地球っ子教室の運営資金としては、9月から新たに「東急子ども応援プログラム」の助成を受け、子どもたちを支える大きな力になっています。

日本語教室では、コロナ禍の影響もあり、現在オンラインレッスンが100%となりました。既存の学習者から順次レッスンを再開する一方、オンラインレッスンに対応できる教師を育成するための勉強会も数多く実施しました。いち早くオンライン化が実現できたのは、前向きに取り組んでくれた日本語教師の皆さまのおかげです。学習者の新規申し込みは例年より少なかったものの、日本語教師の新規登録は堅調です。また、この状況でも企業レッスンの引き合いもありました。課題は、オンラインレッスンでは1回のレッスン時間が短くなりがちなこと、今後の対応策が求められます。事業としては、前年度からの改革も進め、新規オンラインレッスンのレッスン料改定、海外在住のレッスン受講者のためのPayPal導入も実施しました。

地球っ子教室は、4、5月を全休、6、7月は回数を少なくし、9月からは毎週リアルな教室を開きましたが、コロナ禍のため参加人数を制限し予約制としました。同時に、保護者を通じてオンライン環境調査・参加希望調査を行い、秋以降オンライン教室のトライアルを重ね模索しました。2021年1月の緊急事態宣言発出に伴い、3月までは完全オンラインで教室を開催しました。実行してみると、オンラインの環境が整わない子どもたちがいること、リアルの教室の場が大切だということを改めて痛感しました。支援者対象の内部研修や勉強会は特に行いませんでしたが、オンライン教室では複数の支援者で一人の子を担当することもあり学び合いにつながりました。外部のオンライン講演会や勉強会の開催が多く、複数出席しスキルアップできました。コロナ禍でも積極的に支えてくれた支援者にとっても感謝しています。漢字王決定戦は10月と3月にハイブリッド形式で開催しました。運営委員会は7月と3月の2回、有識者3名を招いて行いました。

多文化交流事業は、コロナ禍で制限されることが多い一年でしたが、オンラインのおかげもたくさんあり、NPOの定例ミーティングや交流会は参加人数が増えました。かながわ市民活動フェアも寄付月間の公式認定企画もwebやオンラインでの開催に参加しました。2020年度の寄付月間企画大賞にノミネートされた結果はコロナ禍で遅れて6月に発表され、企画大賞を受賞しました。

コロナ禍の一年でしたが、だからこそ得られた新たなつながりや試みにより成果の多い一年でもありました。今年得た経験は、今後の活動に欠かせないものとなることでしょう。

## II. 事業の成果

日本語教室では1年間で33名、13の国と地域の学習者が日本語を学びました。コロナ禍で新たに対面レッスンからオンラインに切り替えた学習者は18名、新規学習者も9名となりました。対面レッスンを強く希望しているため休止している学習者も6名います。1年の総学習時間数は、約1140時間と前年度の60%でしたが、オンラインレッスン開始までのタイムラグや1回あたりの学習時間の減少が原因と見られます。教師対象の勉強会は計11回行いました。オンラインレッスンを担当する教師は年度末には18名まで増加しました。日本語能力試験(JLPT)は、7月は中止になったものの、12月には実施され、8名が受験、6名が合格しました。

土曜教室は6月20日～3月13日の間に全28回(リアル教室19回、オンライン教室9回)開催しました。1月以降の完全オンライン教室時には、オンラインで学べない環境の生徒5名に対して郵便による通信指導を行いました。夏休み教室は中止し、春休み教室は1日開催しました。年間の登録子ども数は計34名で、うち幼児1名・小学生21名・中学生10名・既卒生2名、子どもたちがつながる国は、多い順に中国・台湾・アメリカ・韓国・マレーシア・ネパール・オランダでした。土曜教室に参加した子どもの延べ人数は221名で、前年比75%減でした。開催数の減少や人数制限に加え、感染を心配して休むことを決めた保護者もいました。登録支援者は29名で、うち学生は大学生・高校生・中学生を合わせて10名、今年初めて参加した支援者は全体のほぼ半数でした。参加した支援者は延べ327名で、前年比25%減でした。内部イベント漢字王決定戦は10月(参加15名)と3月(参加10名)にハイブリッド形式で開催しました。

多文化交流事業では、恒例の「かながわ市民活動フェア」は秋にwebサイトでの開催となり、活動紹介動画を制作してアップすることで参加しました。12月は寄付月間@日本大通実行委員会のメンバーとして寄付月間公式認定企画を共同開催し、6日に実施した完全オンラインの「漢字王決定戦」イベントには約50名が参加しました。22日に開催した、かながわ国際ファンクラブでの留学生を含む外国籍県民対象のイベントには7名が参加しました。地球学校主催の会員交流会は6月と1月にオンラインで開催し、参加者は計43名でした。日本語教室主催のイベントは3月に実施し、参加者は9名でした。

## III 事業内容

### 1. 日本語教室に関する事業

・内容	日本語上達を希望する学習者への日本語指導、日本語学習支援
・日時	通年 オンラインレッスン1140時間
・場所	かながわ県民センター、オンライン
・従事者人員	日本語教師資格を有する正会員 35名
・受益対象者	日本語学習を希望する母語が日本語ではない学習者 33名
・支出額	1,676,463円

## 2. 地球っ子教室に関する事業（外国人児童生徒への支援） 活動内容

- ・内容 土曜教室：外国人児童生徒への日本語指導、教科の学習支援
- ・日時 通年 土曜日 13：00 から 15：00 28回
- ・場所 かながわ県民センター・オンライン
- ・従事者人員 会員・サポーター（一般・大学生） 延べ327名
- ・受益対象者 外国人児童・生徒 延べ221名
  
- ・内容 春休み教室：外国人児童生徒への日本語指導、教科の学習支援
- ・日時 3/26 10：00 から 15：00 1日間
- ・場所 かながわ県民センター・オンライン
- ・従事者人員 会員・サポーター（一般・大学生） 延べ6名
- ・受益対象者 外国人児童・生徒 延べ7名
  
- ・内容 運営委員会
- ・日時 通年2回（7/19 3/18）
- ・場所 オンライン
- ・従事者人員 会員・外部有識者 6名
- ・受益対象者 会員・サポーター、外国人児童・生徒
  
- ・合計支出額 561,065円

## 3. 多文化交流に関する事業

- ・内容 寄付月間イベント、学習者との交流イベント、会員交流会ほか
- ・日時 通年 全5回
- ・場所 Zoom、かながわ国際ファンクラブ、kosha33ほか
- ・従事者人員 担当スタッフ 7名
- ・受益対象者 会員、各教室の学習者・子ども達、日本在住外国人、日本人 101名
- ・支出額 25,000円